

衛生管理技術問題 NO1

- 問題 1 紫外線消毒に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① タオルやケープなど、布片類の消毒に適している。
 - ② 紫外線殺菌灯から照射される紫外線では、皮膚に障害を与えることはない。
 - ③ 紫外線殺菌灯から紫外線は、主として波長が253.7nmの光である。
 - ④ 被消毒物の内部まで消毒(殺菌)できる。
- 問題 2 カット用のカミソリを除くカミソリと血液の付着した器具の消毒法として、理容師施行規則・美容師施行規則定められていない消毒の方法はどれか。
- ① 煮沸する方法
 - ② 消毒用エタノールに浸す方法
 - ③ 0.1%以上の次亜塩素酸ナトリウム液に浸す方法
 - ④ 紫外線を照射する方法
- 問題 3 消毒薬の効果に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- ① 両性界面活性剤は、結核菌に効果がある。
 - ② 逆性石けんは、ウイルスや真菌(カビ)には効果がない。
 - ③ 次亜塩素酸ナトリウムは、結核菌に効果がある。
 - ④ エタノールは、芽胞に効果がない。
- 問題 4 理容所、美容所における清潔方法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- ① 床の清掃は、1週間に1回行う。
 - ② 洗い場は、洗剤を使って洗浄する。
 - ③ 汚物の処理やその容器を洗浄するときは、ゴム手袋を着用する。
 - ④ 棚の上や照明器具も定期的に清掃する。
- 問題 5 理容師・美容師が、業務上利用することのできる理学的消毒法、化学的消毒法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- ① 理学的消毒法は、紫外線、煮沸、蒸気を利用する3種類の方法である。
 - ② 理学的消毒法では、血液が付着又はその疑いのある器具を消毒することができない。
 - ③ 化学的消毒法では、血液が付着した器具の消毒には、薬液に浸す方法が定められている。
 - ④ 化学的消毒法のなかには、器具の表面を拭く方法についても定められている。
- 問題 6 次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。
- a 生きているあらゆる微生物を殺したり除去したりして、無菌の状態を作り出すことを消毒という。
b 生きている病原となりうる微生物を殺したり除去したりして、感染力を失わせることを滅菌という。
c 生きているあらゆる微生物を殺したり除去したりして、無菌の状態を作り出すことを滅菌という。
d 生きている病原となりうる微生物を殺したり除去したりして、感染力を失わせることを消毒という。
- (1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa
- 問題 7 被消毒物件とその消毒法の組合せのうち、正しいものはどれか。
- ① タオルやケープなどの布片類……………紫外線消毒
 - ② ヘア・クリップやヘアピン類……………逆性石けん消毒
 - ③ シザーズやカット用レーザー……………次亜塩素酸ナトリウム消毒
 - ④ カッティング・コームやリング・コーム……………蒸気消毒
- 問題 8 消毒薬の特徴、効力および使用上の注意などに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 消毒薬は、血液や汚れが入り込んでも、その効力が低下しない。
 - ② 消毒薬の効力は、濃度の濃さと作用させる時間の長さに影響を受けるが、作用させる温度の影響はほとんど受けない。
 - ③ 消毒薬の使用液(希釈液)は、こまめに作りかえるように心がける。
 - ④ 余分に調製した消毒薬の使用液(希釈液)は、必ず冷蔵庫内に保管する。
- 問題 9 理容師法施行規則・美容師法施行規則に定める消毒のうち、血液が付着又はその疑いのある器具に適用できる消毒法の組合せはどれか。
- a 沸騰水中に2分以上浸す方法
b 0.1%以上の両面界面活性剤水溶液中に10分以上浸す方法
c 次亜塩素酸ナトリウムが0.01%以上の水溶液中に10分以上浸す方法
d エタノールが76.9～81.4%の水溶液中に10分以上浸す方法
- (1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa
- 問題 10 次の器具のうち、紫外線消毒法が適用できないものはどれか。
- ① タオル
 - ② クリッパー
 - ③ カット用レーザー
 - ④ シザーズ

衛生管理技術問題 NO2

問題 11 結核菌に対する消毒薬の効果に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 両性界面活性剤は、結核菌に効果がある。
- b 消毒用エタノールは、結核菌に効果がない。
- c 逆性石けんは、結核菌に効果がある。
- d グルコン酸クロルヘキシジンは、結核菌に効果がない。

(1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa

問題 12 消毒をする際の一般的な注意事項に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 必ず消毒薬を用いなければならない。
- ② 理容師施行規則・美容師施行規則に定められている消毒方法と同等以上の効果があれば、どのような方法をつかってよい。
- ③ 消毒薬使用液(希釈)は、一度にたくさん作り、使用する都度、小分けして使うとよい。
- ④ 消毒するものの材質を考慮して、消毒法を選らばなければならない。

問題 13 理容師施行規則・美容師法施行規則に定める消毒法のうち、血液が付着またはその疑いのある器具に適用できないものはどれか。

- ① 沸騰水中に2分間以上浸す方法。
- ② 0.1%以上の両性界面活性剤水溶液に10分間以上浸す方法。
- ③ 0.1%以上の次亜塩素酸ナトリウム水溶液中に10分間以上浸す方法。
- ④ 76.9%～81.4%のエタノール水溶液中に10分間以上浸す方法。

問題 14 消毒をする際の一般的な注意事項に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 被消毒物件の材質と汚染の状態を考慮して、消毒法を選ばなければならない。
- ② 消毒薬の使用液(希釈液)は、一度にたくさん作り、使用する都度、小分けして使うとよい。
- ③ 消毒薬の使用液(希釈液)は、週に1回交換すればよい。
- ④ 理容師施行規則・美容師施行規則に定められている消毒方法と同等以上の効果があれば、どのような方法を使ってもよい。

問題 15 消毒法に関する次の記述のうち、血液の付着した器具の消毒に適さないものはどれか。

- ① 1平方センチメートル当たり85マイクロワット以上の紫外線を20分間以上照射する方法。
- ② エタノール濃度が76.9%～81.4%の水溶液に10分間以上浸す方法。
- ③ 沸騰水中で2分間以上煮沸する方法。
- ④ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上の水溶液に10分間以上浸す方法。

問題 16 紫外線消毒に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 紫外線消毒は目や皮膚にも有害であるが、あらゆる種類の微生物に対しても有効である。
- b 紫外線は反射板で乱反射するので、被消毒物件を重ねて置いても消毒できる。
- c 紫外線は波長の短い光であるから、たたんだタオルやケープを消毒するのに適している。
- d 紫外線消毒では、1cm当たり85マイクロワット以上の紫外線を20分間以上照射しなければならない。

(1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa

問題 17 理容師法施行規則・美容師法施行規則で定められている消毒の方法に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 0.05%以上のグルコン酸クロルヘキシジン水溶液を含ませた綿またはガーゼで表面をふく。
- b 沸騰水中に2分間以上浸す。
- c 消毒用エタノールに10分間以上浸す、または消毒用エタノールを含ませた綿もしくはガーゼで表面をふく。
- d 0.1%以上の逆性石けん水溶液を含ませた綿またはガーゼで表面をふく。

(1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa

問題 18 理容師法施行規則・美容師法施行規則で定められている消毒の方法に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 0.05%以上のグルコン酸クロルヘキシジン水溶液を含ませた綿またはガーゼで表面をふく。
- b 40℃をこえる湯の中に10分間以上浸す。
- c エタノール水溶液中に10分間以上浸すか、またはエタノール水溶液を含ませた綿もしくはガーゼで表面をふく。
- d 1平方センチメートル当たり85マイクロワット以上の紫外線を20分間以上照射する。

(1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa

衛生管理技術問題 NO3

- 問題 19 次の記述のうち、理容所・美容所の開設者が衛生管理上、法的に講ずべき措置に該当しないものはどれか。
- ① 施設や器具を常に清潔に保つこと。
 - ② 消毒設備を設けること。
 - ③ 採光、照明及び換気を充分にすること。
 - ④ 冷暖房設備を設けること。
- 問題 20 次の消毒法のうち、結核菌に効果のないものはどれか。
- ① 両性界面活性剤
 - ② 煮沸
 - ③ 逆性石けん
 - ④ エタノール
- 問題 21 殺菌灯から照射される紫外線に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 紫外線は、大腸菌やブドウ球菌を殺菌できるが、ウイルスには効果がない。
 - ② 殺菌力の強い紫外線の波長は、320nm前後である。
 - ③ 紫外線は、目や皮膚に直接照射しても害はない。
 - ④ 物体の表面だけで、その深部や陰の部分の消毒ができない。
- 問題 22 煮沸消毒に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- ① チフス菌やブドウ球菌、結核菌などの栄養型の細菌は70℃以上の湿熱を数秒間作用させると死滅するが、ウイルスは死滅しない。
 - ② 煮沸消毒の際には、炭酸ナトリウムを1～2%の割合で加えておくと、殺菌効力が増す。
 - ③ 煮沸による消毒を行う場合、煮沸後2分以上しなければならない。
 - ④ 煮沸消毒を行う際に特に注意しなければならないことは、被消毒物をよく湯の中に浸すことである。
- 問題 23 器具の材質と消毒法に関する次の組み合わせのうち、誤っているものはどれか。
- ① ガラス製品、陶磁器……………煮沸
 - ② 金属製品……………塩素水
 - ③ セルロイド……………逆性石けん水溶液
 - ④ 革製品……………エタノール水溶液
- 問題 24 対象別の消毒法に関する次の組み合わせのうち、正しいものはどれか。
- ① ガラス製品、陶磁器……………煮沸、各種の薬液
 - ② 金属製品……………塩素、ヨウ素
 - ③ プラスチック・ゴム製品……………加熱
 - ④ 下水溝……………逆性石けん、エタノール
- 問題 25 紫外線消毒法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- ① 紫外線殺菌灯から照射される紫外線は、主として波長が253.7nmの光である。
 - ② タオルやケープなど、布片類の消毒には適さない。
 - ③ 紫外線殺菌灯から照射される紫外線では、皮膚に障害を与えることはない。
 - ④ ハサミやくしに付着している汚れを取り除いてから、紫外線を照射する。
- 問題 26 次の文は、煮沸消毒についてのものであるが、正しい組み合わせは下記のうちどれか。
- a 蒸気消毒は煮沸消毒より作用時間が長く、蒸気消毒と比べると煮沸消毒の方が効果が弱い。
 - b チフス菌、ブドウ球菌、結核菌など栄養型の細菌は、100℃の沸騰水で数秒間作用させると死滅する。
 - c 被消毒物を完全に水に沈めた状態で、沸騰後2分以上煮沸しなければならない。
 - d 煮沸の際に炭酸ナトリウムを水に1～2%の割合で加えておくと、金属のサビ止め効果上がるが、殺菌効力は下がってしまう。
- (1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa
- 問題 27 優れた消毒法の条件を満たしているものは、次の記述のうちどれか。
- ① 消毒の目的を達成させるためには、被消毒物件を多少損じてでも確実な消毒法を利用すべきである。
 - ② 人畜に対して毒性が強くても、確実に効果のある消毒の方法を利用すべきである。
 - ③ 方法が簡便で、かつ確実な、そしてそのための費用も多くかからない消毒の方法を利用すべきである。
 - ④ 臭いなどが残り、消毒したことが確認できる消毒法を利用すべきである。

衛生管理技術問題 NO4

- 問題 28 次の消毒に関する文のうち、正しいものはどれか。
- ① 日光消毒とは、日光に含まれている赤外線殺菌力を利用する消毒法である。
 - ② 逆性石けんは、普通の石けんと併用すると消毒力は強くなる。
 - ③ 熱によって消毒する場合、消毒される物体に水分が少ないほど効率がよい。
 - ④ 消毒用界面活性剤は、有機物が多いと殺菌効果が著しく低下する。
- 問題 29 消毒薬の一般的性質に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 消毒薬は、臭いの強いもののほうが殺菌力も強い。
 - ② 消毒薬は、作用させる温度が低くなればなるほど殺菌力も低下する。
 - ③ 消毒薬は、濃度が濃くなっても人や動物に対する毒性は変わらない。
 - ④ 消毒薬は、汚れや有機物が混入していても殺菌力は低下しない。
- 問題 30 消毒を行う際の一般的な注意事項に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 消毒するものの性質を見極めて、消毒法を選ばなければならない。
 - ② 理容師法施行規則・美容師法施行規則に定められている消毒法と同等以上の効果があれば、どのような方法でもよい。
 - ③ 消毒薬使用液(希釈液)は、一度にたくさん作り使用するたびに小分けして使うとよい。
 - ④ 必ず消毒薬を用いなければならない。
- 問題 31 カミソリ等以外の消毒法とその説明に関する次の組み合わせのうち、誤っているものはどれか。
- ① 蒸気消毒……被消毒物の湿度が80℃以上になってから10分間以上さようさせる。
 - ② 紫外線消毒……あらゆる微生物に効果のある方法であるが、被消毒物件の表面だけしか消毒(殺菌)できない。
 - ③ エタノール消毒……短時間で消毒することができ、色や臭いは残らないが、濃度変化を起こしやすい。
 - ④ 塩素系薬剤消毒……有機物による濃度変化をおこしにくく、漂白作用があり結核菌も殺菌できる。
- 問題 32 消毒法に関する次の記述のうち、血液の付着した器具の消毒に適さないものはどれか。
- ① 紫外線消毒では、1平方センチメートル当たり85マイクロワット以上の紫外線を20分間以上照射する。
 - ② エタノール消毒では、エタノール濃度が76.9%～81.4%の水溶液に10分間以上浸漬する。
 - ③ 煮沸消毒法では、沸騰水中で2分間以上煮沸する。
 - ④ 次亜塩素酸ナトリウム消毒では、次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上の水溶液に10分間以上浸漬する。
- 問題 33 消毒についての次の文の中で、誤っているものはどれか。
- ① 消毒は、汚染されているものから病原微生物(病原体)を取り除いたり、殺菌することである。
 - ② 消毒するには、理学(物理)的な方法や化学的方法で菌体の成分を変化させたり、結合したりして、菌の発育や繁殖を止めることが必要である。
 - ③ 美容や理容の業務で義務づけられている消毒は、客の皮膚に直接触れる器具についてのみであり、ほかの衛生上の措置は義務づけられていない。
 - ④ 消毒に関する重要な意義は、感染を未然に防ぐことである。
- 問題 34 消毒薬を保存する際の注意に関する次の記述のうち、誤っているものを下記より選びなさい。
- ① 密栓して、冷暗所に保存する。
 - ② 塩素系の消毒薬は冷暗所(15℃以下)に保存する。
 - ③ 薄めた消毒薬液は成分が安定するまで冷暗所に保存する。
 - ④ 子どもの手の届かない所に保管する。
- 問題 35 煮沸消毒に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- ① 美容師法施行規則で定められている煮沸消毒は、沸騰中で2分以上煮沸することをいう。
 - ② 美容師法施行規則で定められている煮沸消毒の作用条件では、通常、芽胞は死滅しない。
 - ③ 煮沸消毒は作用時間が短いので、蒸気消毒より効果が少ない。
 - ④ チフス菌、ブドウ球菌、結核菌などの栄養型の細菌やウイルスは、100℃の沸騰水中で数秒間作用させると死滅する。
- 問題 36 美容の業において、すぐれた消毒法を選定する条件を満たしているものは、次のうちどれか。
- ① 短時間で消毒され、効果が確実であること。
 - ② 経費が多くかかっても、効果が確実であること。
 - ③ 毒性が強くても、効果が確実であること。
 - ④ 被消毒物の材質を損なっても、効果があること。

衛生管理技術問題 NO5

- 問題 37 消毒を行う際の一般的な注意事項に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 美容師法施行規則に定められている消毒法と同等以上のこうかがあれば、どのような方法でもよい。
 - ② 消毒薬使用液(希釈液)は、一度にたくさん作り、使用する都度、小分けして使うとよい。
 - ③ 手指や皮膚を消毒するには、刺激性の強い消毒薬を選ぶ。
 - ④ 被消毒物件の性質(材質)を見極めて、消毒法を選らばなければならない。
- 問題 38 紫外線消毒についての次の文の中で、誤っているものはどれか。
- ① 被消毒物件の深部や陰の部分にも作用する。
 - ② あらゆる菌種に有効である。
 - ③ 目や皮膚には有害である。
 - ④ ハサミ、くしに付着している汚れを取り除かなければ消毒効果がない。
- 問題 39 煮沸消毒とは沸騰した熱湯で消毒する方法だが、次の文で正しいものはどれか。
- ① 芽胞を含め、細菌やウイルスをすべて、この方法で死滅させることができる。
 - ② 被消毒物を湯の水面より下に置き、沸騰後、2分間以上煮沸する。
 - ③ 炭酸ナトリウムを水に1～2%の割合で加えると、金属のサビ止め効果はあるが、殺菌効力は下がる。
 - ④ 蒸気消毒と比べ作用時間が短い分だけ、効果が蒸気消毒より弱くなる。
- 問題 40 優れた消毒法の条件に関する次の組み合わせのうち、不適当なものはどれか。
- ① 被消毒物件を損じないこと。……………効果が確実であること
 - ② 短時間に消毒されること……………方法が簡単であること
 - ③ 臭いや色が残らないこと……………毒性が低いこと
 - ④ 内部には作用しないこと……………費用が多くなること
- 問題 41 消毒を行う際の一般的な注意事項に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 皮膚に接する器具、布片にだけでなく、その他の器具、布片さらに清潔をも常に保持する。
 - ② 皮膚に接する器具、布片類の消毒は、美容師法施行規則に定められている方法だけにこだわらない。
 - ③ 消毒薬の使用液は一度にたくさん作り、必要ときに小分けして使用する。
 - ④ 被消毒物件の性質にかかわらず実施しやすい方法を選ぶ。
- 問題 42 紫外線に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- ① 殺菌力のある紫外線は、目や皮膚に対して有害に作用する。
 - ② 紫外線では、陰の部分の殺菌効果は期待できない。
 - ③ 紫外線殺菌灯によって得られる紫外線は、波長が253.7nmのものである。
 - ④ 紫外線は毛を密に植えてあるブラシの内部にまで到達する。
- 問題 43 消毒薬に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 両性界面活性剤は、逆性石けんやグルコン酸クロルヘキシジンと同様、結核菌には効果がない。
 - ② 逆性石けんは、石けん(化粧石けん)と混合して使うことができる。
 - ③ 次亜塩素酸ナトリウムは、肝炎ウイルスやエイズウイルスにも効果があり、漂白作用もある。
 - ④ エタノールは、長時間作用させなければ殺菌効果を示さないが、濃度変化を起こしにくい。
- 問題 44 美容師法施行規則に定められている皮膚に接する器具のうち、カミソリ等以外の消毒法に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。
- a 沸騰水中に1分間以上浸ける。
b 80℃以上の湿熱(水蒸気)に2分間以上触れさせる。
c エタノール水溶液(エタノールが76.9%以上81.4%以下である水溶液)に10分間以上浸ける。
d 逆性石けん水溶液(逆性石けんが0.1%以上である水溶液)に10分間以上浸ける。
- (1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa
- 問題 45 消毒法に関する次の記述のうち、血液の付着した器具の消毒に適さないものはどれか。
- ① 1平方センチメートル当たり85マイクロワット以上の紫外線を20分間以上照射する方法。
 - ② エタノール濃度が76.9%～81.4%の水溶液に10分間以上浸す方法。
 - ③ 沸騰水中で2分間以上煮沸する方法。
 - ④ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上の水溶液に10分間以上浸す方法。

衛生管理技術問題 NO6

問題 46 消毒薬の性質に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a エタノールは、界面活性剤系の消毒薬やグルコン酸クロルヘキシジンと反応しないので、これらと混用することができる。
- b 次亜塩素酸ナトリウムは、金属を腐食させる。
- c グルコン酸クロルヘキシジンは、石けん分が混在しても殺菌力が低下しない。
- d 逆性石けんや両性界面活性剤は、特有の臭いがある。

(1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa

問題 47 理容所・美容所に常備しておくよい消毒薬の濃度について、正しいものの組合せはどれか。

- a 血液が付着した、あるいはその疑いのある器具の消毒には、次亜塩素酸ナトリウムを0.01%以上の濃度で使用する。
- b エタノールは、76.9～81.4%の濃度で使用する。
- c 血液が付着していない器具や手指の消毒には、グルコン酸クロルヘキシジンを0.05%以上の濃度で使用する。
- d 血液の付着していない器具や手指の消毒には、逆性石けんを0.05%以上の濃度で使用する。

(1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa

問題 48 消毒用エタノールの特徴や用途に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 殺菌作用は、タンパク質の変性と酵素阻害であると考えられる。
- b 理容所、美容所では、カミソリを含めてすべての器具はこれで清拭すればよい。
- c 芽胞を有する菌も、持たない菌も、10秒以内に殺菌できる。
- d 界面活性剤系の消毒薬やグルコン酸クロルヘキシジンと混ぜて使用することができる。

(1) aとb (2) bとc (3) cとd (4) dとa

問題 49 消毒薬とその特徴に関する次の組合せのうち、正しいものはどれか。

- ① 次亜塩素酸ナトリウム……………光分解しやすい
- ② エタノール……………濃度変化を起こしにくい
- ③ 逆性石けん……………臭気が強い
- ④ グルコン酸クロルヘキシジン……………プラスチックやゴムを劣化する

問題 50 理学的消毒法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 血液が付着した器具の消毒に使える方法は、煮沸法だけである。
- ② カミソリの消毒に利用できる理学的消毒法はない。
- ③ 血液が付着した疑いのないタオルは、蒸気消毒法が利用できる。
- ④ 被消毒物体の内部について消毒できないのは、紫外線消毒法である。

衛生管理技術 解答

問題 1	3	(1) タオルやケープなど、布片類の消毒に適しているのは、次亜塩素酸ナトリウム。 (2) 目やその他の皮膚、粘膜に直接照射を受けると、有害である。 (4) 物体の表面だけで、その深部や陰の部分の消毒ができない。
問題 2	4	血液が付着しているもの、またはその疑いがあるものの消毒は ① 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ② エタノールが76.9%～81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。 以上の3項目が血液の付着した器具の消毒である
問題 3	3	(3) 次亜塩素酸ナトリウムは、結核菌に対して殺菌力がほとんどない。
問題 4	1	(1) 1日1回以上清掃し、壁、天井、床は常に清潔にする。
問題 5	2	(2) 煮沸消毒が規定されている。
問題 6	3	微生物を殺すことを、わが国では一般に殺菌という。 微生物の中でも、主として病原微生物を殺すかまたは除去して、 感染力をなくすことを消毒という。これに対して、病原微生物のみでなく、 あらゆる微生物を殺すかまたは除去して、 生きている微生物が存在しない状態にすることを 滅菌という。また、防腐とは、微生物を殺さないまでも、 さまざまな方法によってその発育や 作用を止めて、目的のものの腐敗を防ぐことをいう。
問題 7	2	(1) 紫外線消毒は、物体の表面だけに有効で、被消毒物件の 深部や陰の部分の消毒ができないので、不適當である。 (3) 次亜塩素酸ナトリウムは金属を腐食するのでシザーズや カット用レーザーといった金属の消毒法は不適當である。 (4) コーム類の材質としては、セルロイドやプラスチックのほかに、 骨、角、木、エボナイト、ベークライト、べっこうなどのものがある。 いずれも熱に対して弱いから、蒸気消毒は不適當である。
問題 8	3	(1) 逆性石けんや両性界面活性剤は、有機物(汚れ)があると効力が低下する。 (2) 一般に消毒薬の殺菌作用の速度は温度の上昇とともに速くなるし、 薬物が菌体内へ拡散し、侵入していく速度も速まる。 したがって、殺菌効力も増加する。 (4) 一般に、消毒薬は日光の直射しないところに、栓をかたくしめて保存する。 特に塩素系は、日光と熱により分解され、効力が弱くなるので、 原則として冷暗所(15℃以下)に置かなければならない。
問題 9	4	理容師法施行規則・美容師施行規則では、 「かみそり(頭髪を切断する用途に使用されるものを除く。) 及びかみそり以外の器具で血液が付着しているもの又はその疑いのあるもの。」に 適用する消毒法としてaとbのほかに次亜塩素酸ナトリウム水溶液による消毒法 (cで次亜塩素酸ナトリウムの濃度を0.01%から0.1%に変更した消毒法) が規定されている。
問題 10	1	紫外線消毒法は、カット用レーザー、シザーズ、クリッパー、 ふけとり、バイブレーターの皮膚に接する部分、ムム類、ブラシなどに使用する。 コただし、シェービング・ブラシなどのように、ぎっしりと毛が植えてあるものに は不適當である。また、タオルやケープも表面だけしか消毒できないので不適當である。 紫外線消毒器を使用する際には、 これから消毒しようとするものを積み重ねたり陰をつくらないことや、 油(脂)などの汚れは洗浄してから入れることなどの注意が必要である。
問題 11	4	bの消毒用エタノールは、結核菌に効果がある。 Cの逆性石けんは、結核菌に効果がない。 dのグルコン酸クロルヘキシジンは、芽胞や結核菌、ウイルスなどには効果がみられない。
問題 12	4	(1)は消毒法は理学的消毒法、化学的消毒法の2種類がある。理学的消毒法は、物理的 消毒法ともいい、熱、紫外線、放射線、ろ過などによって病原微生物を殺すか、除去する 方法である。これらのうちで、理容・美容に用いられるのは、蒸気消毒や煮沸消毒、あるいは 紫外線を利用する方法である。科学的消毒法とは薬品による消毒法のことで、用いる薬品 を消毒薬という。
問題 13	2	① 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ② エタノールが76.9%～81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。 以上の3項目が血液の付着した器具の消毒である
問題 14	1	① 消毒するものの性質に注意し、適当な消毒薬や消毒法を選ぶ。 ② 病原微生物の種類、抵抗性に応じた方法、時間などを選ぶこと。 ③ 希釈した消毒薬使用液は、定期的に作つくりなおすこと。 ④ 薬品は密閉し、冷暗所に保存すること。ラベルを汚さないようにして、他のものと よく区別しておくこと。 ⑤ 食品に使う容器を使用してはならない。

問題 13	2	① 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ② エタノールが76.9%～81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。 以上の3項目が血液の付着した器具の消毒である
問題 16	4	bは物体の表面だけで、その深部や陰の部分の消毒ができない。 Cはブラシやくし(コーム)の消毒に適している。(プラスチックの一部には劣化するものもある。)
問題 17	2	aはグルコン酸クロルヘキシジンが0.05%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法 dは逆性石けんが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法
問題 18	3	aはグルコン酸クロルヘキシジンが0.05%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法 bは煮沸消毒は、沸騰後2分間以上浸す方法
問題 19	4	理容所・美容所の開設者が衛生管理上、法的に講ずべき措置は上記の1～3とその他 都道府県が条例で定める衛生上必要な措置である。
問題 20	3	逆性石けんは栄養型の細菌に効果があり、結核菌、ウイルス、芽胞に効果なし
問題 21	4	1はあらゆる菌類に有効 2は波長は253.7nmのもの 3は紫外線は、目や皮膚に直接照射を、受けると有害である
問題 22	1	チフス菌やブドウ球菌、結核菌などの栄養型の細菌やウイルスは、 70℃以上の湿熱を数秒間作用させるとしめつする。
問題 23	2	金属製品は逆性石けん、両性界面活性剤、グルコン酸クロルヘキシジン、エタノールで拭く 紫外線、蒸気、煮沸が適する消毒法。塩素水では腐食します。
問題 24	1	2の金属製品……………逆性石けん・両性界面活性剤・ グルコン酸クロルヘキシジン・エタノールで拭く紫外線・蒸気・煮沸 3のプラスチック・ゴム製品……………逆性石けん・両性界面活性剤・ グルコン酸クロルヘキシジン・紫外線 4の下水溝……………オルトジクロルベンゼンを主剤とした乳剤 (殺虫効果も期待できる)を使用
問題 25	3	(3) 目やその他の皮膚、粘膜に直接照射を受けると、有害である。
問題 26	2	aは蒸気消毒は80℃を超える湿熱に10分間以上触れさせ、煮沸消毒は 沸騰後2分以上煮沸します。煮沸消毒は消毒時間が短いですが十分効果がある。 dはサビ止め効果と殺菌力も増加する。
問題 27	3	優れた消毒法の条件は ①消毒の効果が確実であること ②短時間に消毒されること ③方法が簡単であって、費用も多くかからないこと ④消毒する物件を損なわない方法であること ⑤いつでも、また、どこでも実行できる方法 ⑥消毒を行うさいに人畜に対して毒性が低いこと ⑦消毒した物件に悪臭を残さないこと ⑧必要であれば表面のみでなく、内部をも、消毒する 以上8項目である。
問題 28	4	1は日光に含まれている紫外線の殺菌力を利用する方法。 2は普通の石けんと併用すると沈殿を起こして、消毒力が低下する。 3は熱による消毒では、同一温度においては乾熱に比べ湿熱のほうが強く作用します。
問題 29	2	1は臭いの強さと殺菌力は関係なく、臭いの強いものは消毒後に臭いが残るおそれがある 3は濃度が濃くなると人やどうぶつに対して障害を与えることがある 4は有機物が混入すると殺菌力が低下するものもある
問題 30	1	2は消毒は美容師施行規則に定められている8種類の消毒法のうちから 適するものを選んで行う 3は希釈液は一度にたくさん作らず、1回に必要な量だけつくります 4は紫外線・煮沸・蒸気がある
問題 31	4	4は塩素系薬剤消毒は、漂白作用があり、毒性が少ないなどの長所がある反面、 比較的不安定で、塩素自身の刺激臭が残り、結核菌に対して殺菌力はほとんどない
問題 32	1	① 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ② エタノールが76.9%～81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。
問題 33	3	美容師法では、ハサミ、くしなど、皮膚に直接触れる器具の消毒だけでなく、 皮膚に接する布についても規定されている
問題 34	3	薄めた消毒液は、すぐに使用できるように配置するのが適切で、 希釈してから長時間経過した液は使用しないようにする
問題 35	3	3の煮沸消毒は美容師法施行規則に規定されているように、沸騰後 2分以上の煮沸を行えば十分に消毒の目的を達成できる
問題 36	1	2は費用は多くかからないこと 3は消毒を行う際に人畜に無害であること 4は消毒する物件を損じないこと
問題 37	4	1は美容師法施行規則に定められている消毒法の中から適当な消毒法を選ぶ 2は消毒薬は希釈するとしだいに分解したり、効力が弱まってくるため長い間 保存した後使用するのとは適当ではない 3は手指や皮膚を消毒するには、刺激性の弱い消毒薬を選ぶ

問題 38	1	紫外線消毒は深部や陰の部分には作用しない
問題 39	2	1は芽胞は熱に対して強い抵抗性があるため煮沸消毒では死滅しない 3は炭酸ナトリウムを1～2%の割合で加えると殺菌力を増し、さび止め効果もある 4は蒸気消毒は80℃を超える湿熱に10分間以上、煮沸消毒では沸騰後2分間以上となっているが、消毒効果は高い
問題 40	4	すぐれた消毒法の条件には、必要であれば、表面のみでなく、内部をも消毒し費用も多くかからないこと
問題 41	1	2は皮膚に接する器具、布片類の消毒は、美容師法施行規則に定められている方法から選ぶ 3は消毒薬の使用液は一度に必要な量だけつくる。希釈した消毒薬はしだいに分解したり、効力が弱まる 4は被消毒物件の性質に応じた消毒薬や方法を選ぶ
問題 42	4	紫外線消毒は、プラスチック製品でつくられたブラシやくしの消毒に適しているが、消毒しようとするものの陰の部分にはほとんど作用しない
問題 43	3	1は両性界面活性剤は、結核菌に対する効力があります 2は逆性石けんは、普通の石けんと荷電が逆のため混合して使うと効果がなくなる 4はエタノールは、蒸発しやすいので、長時間作用させることは難しく、濃度変化を起こしやすい
問題 44	3	皮膚に接する器具のうち、血液が付着しているものやその疑いのあるもの以外のものに係る消毒方法は、 ① エタノールが76.9%～81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ② 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。 以上の3項目が血液の付着した器具の消毒である
問題 45	1	① エタノールが76.9%～81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ② 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。 以上の3項目が血液の付着した器具の消毒である
問題 46	1	Cのグルコン酸クロルヘキシジンは石けん分が混合すると殺菌力が低下する。 dの逆性石けんや両性界面活性剤は無色無臭である。
問題 47	2	aの血液の付着した次亜塩素酸ナトリウム濃度は0.1% dの逆性石けん濃度は0.1%(血液の付着のときは使えない。)
問題 48	4	bカミソリと血液の付着したもの、あるいはその疑いのあるものは、10分間以上浸すこと、ガーゼや脱脂綿に含ませて清拭するという2種類の方法が規定されている。 美容所においてエタノールで清拭すれば実用上は安全と考えてよいのは、「カミソリ以外の血液の付着していない器具」であり、「カミソリを含めてすべての器具」ではない。
問題 49	1	②エタノールを保存する際には、揮発性が強いいため濃度変化を起こしやすいので、密栓する。 ③ 逆性せっけんは無色無臭で毒性も弱い。 ④グルコン酸クロルヘキシジンはプラスチック・ゴムを劣化させない。
問題 50	2	②煮沸があり、かみそり及びカミソリ以外のきぐで血液が付着しているもの、またはその疑いのあるものの消毒に使用できる。